

奈良県の経済動向分析
2017年2月

2017年2月14日

有限会社オフィス・ビー

[1] 分析の概観

【消費（P. 3～6）】

◆奈良県の百貨店・スーパー販売額

[今回のデータの考察]

- ・前回報告の2016年8月・9月に続き、10月も前年同月比が前年を下回った。
- ・11月は前年同月比が少し前年を上回ったものの、12月は再び下降しており、今後どちらに振れるのか、注目する必要がある。
- ・商品別には、飲食料品の前年同月比が前年を上回ったことが貢献し、全体の前年同月比も前年を上回った。しかし、その他は殆んどの商品の前年同月比が前年を下回っており、全体も減少傾向を示している。
- ・特に、家具の販売額の減少が更に大きくなっており、県内消費を引き下げている。

[前回の考察との比較]

- ・前回の分析では、奈良県内の百貨店・スーパー販売額の前年同月比が浮き沈みをしている状況を取り上げたが、それはその後も変わっていない。
- ・飲食料品の上昇は野菜の高騰の影響が表れたものであり、家具については低価格店の増加の影響が大きいものと想定される。

◆奈良県の新車販売台数

[今回のデータの考察]

- ・伸びが止まっていた乗用車販売台数の前年対比であるが、11月・12月は前年を大きく上回った。
- ・10月までマイナスが続いていた乗用車販売台数の前年同月比であるが、11月以降は前年同月を上回った。特に12月は、普通車・小型車・軽自動車ともに前年同月を上回った。

[前回の考察との比較]

- ・前回に予測した通り新車販売台数の増加が進んでおり、今後もこの傾向が続くのか、動向に注目する必要がある。
- ・特に「普通車・小型車」の前年対比の伸びが大きくなっており、今後の更なる上昇が期待される。

◆奈良市の消費者物価指数

[今回のデータの考察]

- ・2016年3月から前年を下回ってきた消費者物価指数であるが、11月から前年を上回った。

[前回の考察との比較]

- ・前回の分析に比べて特に上昇幅が大きいのは、「生鮮食品」である。ただし、天候不順による野菜価格高騰の影響が大きいとも見られるため、平常に戻れば再び低下する可能性が高い。

【来訪（P. 7）】

[今回のデータの考察]

- ・今年度は、5月以降、10月まで前年同月よりも減少していた延べ宿泊者数であるが、11月は微増に転じた。

[前回の考察との比較]

- ・前回以上に「ビジネスホテル」の伸びが大きいですが、簡易宿所は大きく下降した。また、前回伸びていた外国人の宿泊者数が、9月以降は下降している。

【生産（P. 8）】

[今回のデータの考察]

- ・奈良県の鉱工業生産指数の前年同月比は、2016年10月減少、11月増加と大きく変化している。今後の動向に注目する必要がある。

[前回の考察との比較]

- ・前回の分析と大きく傾向は変わらないが、「窯業・土石製品工業」の前年同月比の伸びはやや鈍化した。

【民間投資（P. 9）】

[今回のデータの考察]

- ・2016年の10月・11月は住宅着工戸数が前年同月を下回ったが、12月は前年同月を上回った。
- ・2016年10月は、「貸家」の前年対比が大きく伸びたのに対し、「持ち家」と「分譲」が減少したため、合計の前年対比はマイナスになった。11月は、「持ち家」が少しだけ前年を上回ったものの、「貸家」の微減、「分譲」の大幅な減少の影響で、合計の前年対比がマイナスになった。
- ・12月は、「貸家」の大幅な増加が他の減少を上回り、合計の前年対比がプラスになった。

[前回の考察との比較]

- ・前回同様、前年対比で「貸家」の着工件数が伸び、「分譲」が減少する傾向が続いている

【公共投資（P. 10）】

[今回のデータの考察]

- ・浮き沈みはあるが、11月・12月は、昨年を上回る公共事業が実施されている。
- ・平成28年度第2次補正予算の影響が出ているものと見受けられる。
- ・国・県・市町村ともに、10月の公共事業は昨年同月を大きく下回っている。
- ・しかし、11月・12月は特に国と県の公共事業が昨年を大きく上回っている。

[前回の考察との比較]

- ・当たり前のことであるが、補正予算の執行時期に合わせて前年同月比が上下する状況については、前回と変わりがない。

【雇用（P. 11）】

[今回のデータの考察]

- ・有効求人倍率・新規求人倍率(いずれも季節調整値)はともに緩やかに上昇していたが、11月に大きく上昇し、求職者に優位な状況が更に強まった。

[前回の考察との比較]

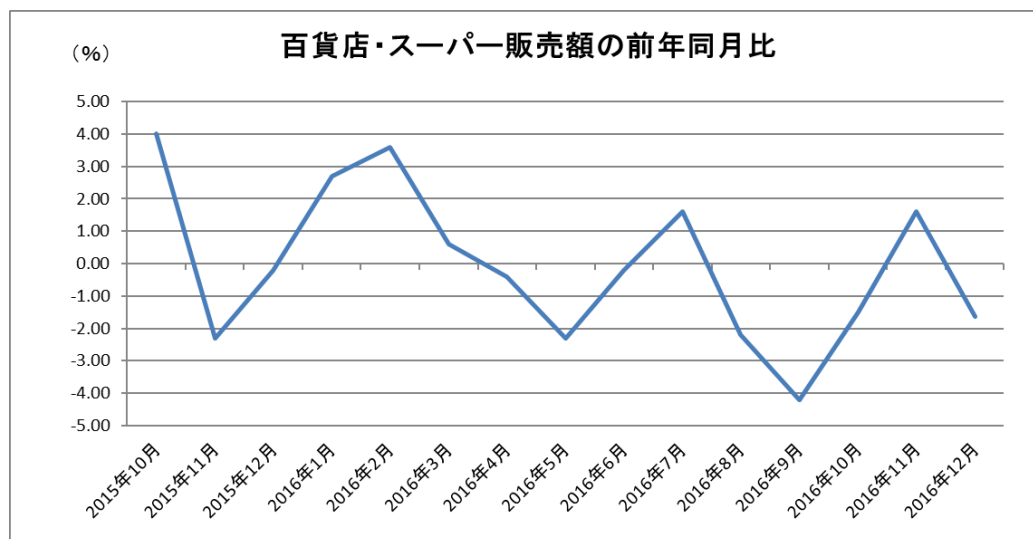
- ・直近3ヶ月間の有効求人倍率(原数値)は、前回調査時に比べて更に更に上昇しており、求職者の優位性が高まっている。
- ・結果的に、思ったように採用が進んでいない企業では、採用活動の強化を図っていく必要がある。計画性と情報発信の向上に努めて頂きたい。

[2] 具体的な分析内容

1. 消費

(1) 奈良県の百貨店・スーパー販売額

① 前年同月比の推移（2016年12月は速報値）



出典：近畿経済産業局 百貨店・スーパー販売状況

[今回のデータの考察]

- ・前回報告の2016年8月・9月に続き、10月も前年同月比が前年を下回った。
- ・11月は前年同月比が少し前年を上回ったものの、12月は再び下降しており、今後どちらに振れるのか、注目する必要がある。

[前回の考察との比較]

- ・前回の分析では、奈良県内の百貨店・スーパー販売額の前年同月比が浮き沈みをしている状況を取り上げたが、それはその後も変わっていない。



②直近の状況（2016年12月は速報値）

単位(百万円、%)

対 象		2016年10月		2016年11月		2016年12月・速報値	
		販売額	前年 同月比	販売額	前年 同月比	販売額	前年 同月比
合 計		18,446	▲ 1.5	18,614	1.6	23,534	▲ 1.6
商	衣料品計	2,362	▲ 10.2	2,543	0.5	2,592	▲ 4.4
	紳士服・洋品	513	▲ 12.0	629	3.6	658	▲ 6.8
	婦人・子供服・洋品	1,538	▲ 8.4	1,628	1.3	1,592	▲ 3.3
	その他の衣料品	311	▲ 15.3	286	▲ 9.7	342	▲ 4.7
品 別	身の回り品	552	▲ 4.2	531	▲ 9.9	690	0.5
	飲食料品	11,996	0.8	11,926	3.2	15,485	▲ 0.0
	家具・家電・家庭用品計	726	▲ 5.4	757	▲ 2.4	879	▲ 11.3
	家具	102	▲ 18.9	114	▲ 17.9	113	▲ 21.7
	家庭用電気機械器具	129	▲ 1.6	142	2.4	174	▲ 17.6
	家庭用品	494	▲ 3.0	502	0.6	592	▲ 6.9
	その他の商品	2,718	▲ 1.1	2,766	▲ 0.2	3,782	▲ 3.9
	食堂・喫茶	92	▲ 11.2	91	▲ 6.8	106	▲ 5.7

商品名	内 容 例 示
紳士服・洋品	紳士服、下着類、ワイシャツ、ネクタイ、靴下など
婦人・子供服・洋品	婦人服、子供服、下着類、ブラウス、靴下など
その他の衣料品	呉服、反物、寝装具類、和装小物、タオルなど
身の回り品	靴、履物、和・洋傘類、かばん、トランク、ハンドバッグ、裁縫用品、装身具(宝石、貴金属製を除く)など
飲食料品	飲料、和・洋酒、調味料、食肉、鮮魚、乾物、野菜、果実、菓子、パン、乳製品など
家具	和・洋家具、室内調度品、神仏具、じゅうたん、カーテン、ござなど
家庭用電気機械器具	テレビ、ラジオ、ステレオ、DVD、エアコン、電気洗濯機、電気冷蔵庫、照明器具、電気こたつ、電気ストーブ、パソコン、電話機、携帯電話機など
家庭用品	陶磁器、ガラス器、漆器、金物、荒物、ガス器具、石油ストーブ、水道器具、ミシン、編機など
その他の商品	医薬品、化粧品、洗剤、書籍、文房具、事務用品、貴金属、宝石、美術工芸品、時計、眼鏡、カメラ、ビデオテープ、CDソフト、DVDソフト、スポーツ用品、娯楽用品、がん具、電子応用がん具、ゲームソフト、楽器、園芸用品、大工用品、ペット関連商品、たばこ、喫煙具、燃料、自転車、自動車、トイレットペーパー、ティッシュペーパー、紙おむつなど
食堂・喫茶	食堂、喫茶室、すし屋などその場で顧客に飲食させるもの

出典：近畿経済産業局 百貨店・スーパー販売状況

[今回のデータの考察]

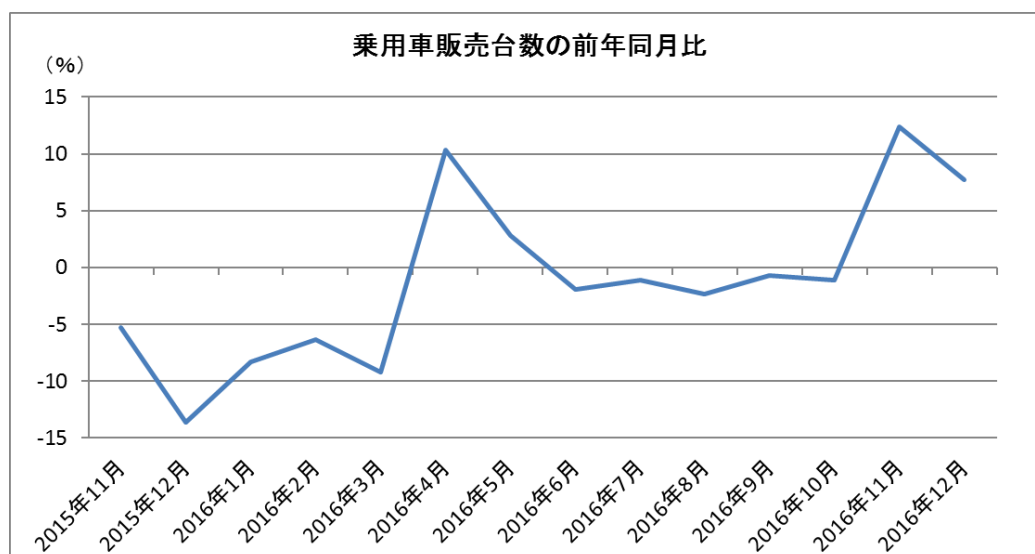
- ・今回は、飲食料品の前年同月比が前年を上回ったことが貢献し、全体の前年同月比も前年を上回った。しかし、その他は殆どどの商品の前年同月比が前年を下回っており、全体も減少傾向を示している。
- ・特に、家具の販売額の減少が更に大きくなっており、県内消費を引き下げている。

[前回の考察との比較]

- ・飲食料品の上昇は野菜の高騰の影響が表れたものであり、家具については低価格店の増加の影響が大きいものと想定される。

(2) 奈良県の乗用車販売台数

① 前年同月比の推移



出典: 奈良運輸支局・奈良軽自動車協会

[今回のデータの考察]

- ・伸びが止まっていた乗用車販売台数の前年対比であるが、11月・12月は前年を大きく上回った。

[前回の考察との比較]

- ・前回に予測した通り新車販売台数の増加が進んでおり、今後もこの傾向が続くのか、動向に注目する必要がある。

② 直近の状況

単位(台、%)

対 象	2016年10月		2016年11月		2016年12月	
	販売台数	前年同月比	販売台数	前年同月比	販売台数	前年同月比
合 計	3,288	▲ 1.1	3,660	12.4	3,409	7.7
普通車・小型車	2,157	0.1	2,538	20.8	2,231	10.6
軽自動車	1,131	▲ 3.3	1,122	▲ 2.9	1,178	2.6

出典: 奈良運輸支局・奈良軽自動車協会

[今回のデータの考察]

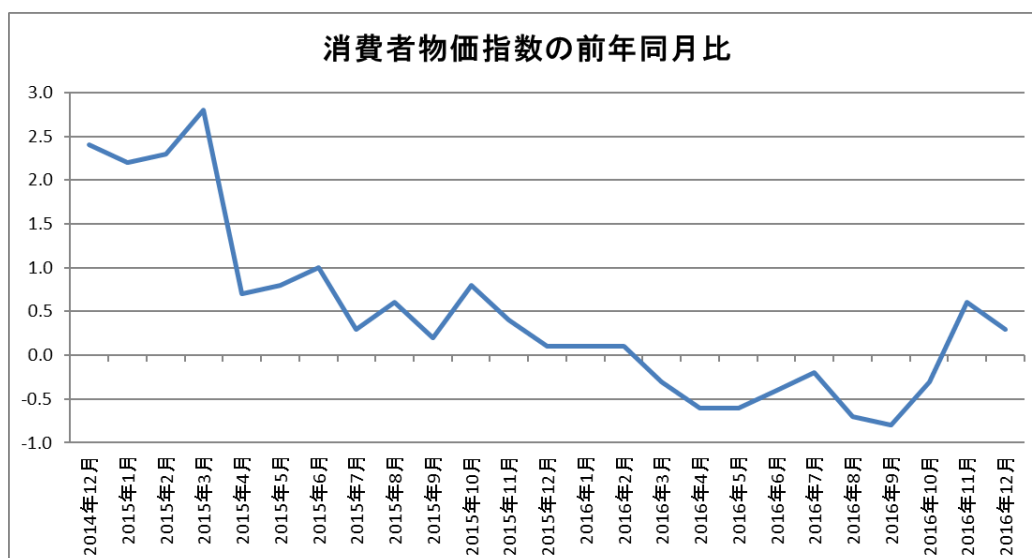
- ・10月までマイナスが続いていた乗用車販売台数の前年同月比であるが、11月以降は前年同月を上回った。特に12月は、普通車・小型車・軽自動車ともに前年同月を上回った。

[前回の考察との比較]

- ・特に「普通車・小型車」の前年対比の伸びが大きくなっており、今後の更なる上昇が期待される。

(3) 奈良市の消費者物価指数

①前年同月比の推移（総合指標）



出典：奈良県

[今回のデータの考察]

・2016年3月から前年を下回ってきた消費者物価指数であるが、11月から前年を上回った。

②直近の状況（総合指標）

単位（2015年=100）

区分	平成27年	平成28年	平成28年	前月比		前年同月比
	12月	11月	12月	(%)	寄与度	(%)
総合	99.8	100.4	100.1	▲ 0.3	▲ 0.3	0.3
除く生鮮	100.2	99.8	99.8	0.1	0.1	▲ 0.3
生鮮食品	92.5	114.8	106.6	▲ 7.2	▲ 0.3	15.2
食料	99.1	103.5	102.3	▲ 1.2	▲ 0.3	3.2
住居	99.8	99.0	99.0	0.0	0.0	▲ 0.8
光熱・水道	98.2	92.5	93.0	0.6	0.0	▲ 5.3
家具・家事用品	99.8	95.7	96.3	0.7	0.0	▲ 3.5
被服及び履物	103.2	104.3	102.5	▲ 1.7	▲ 0.1	▲ 0.7
保健医療	100.6	101.8	101.7	▲ 0.2	▲ 0.0	1.0
交通・通信	99.3	98.2	98.5	0.2	0.0	▲ 0.9
教育	99.9	102.9	102.9	0.0	0.0	3.0
教養娯楽	101.2	102.2	102.4	0.2	0.0	1.2
諸雑費	100.3	99.9	99.7	▲ 0.1	▲ 0.0	▲ 0.5

出典：奈良県

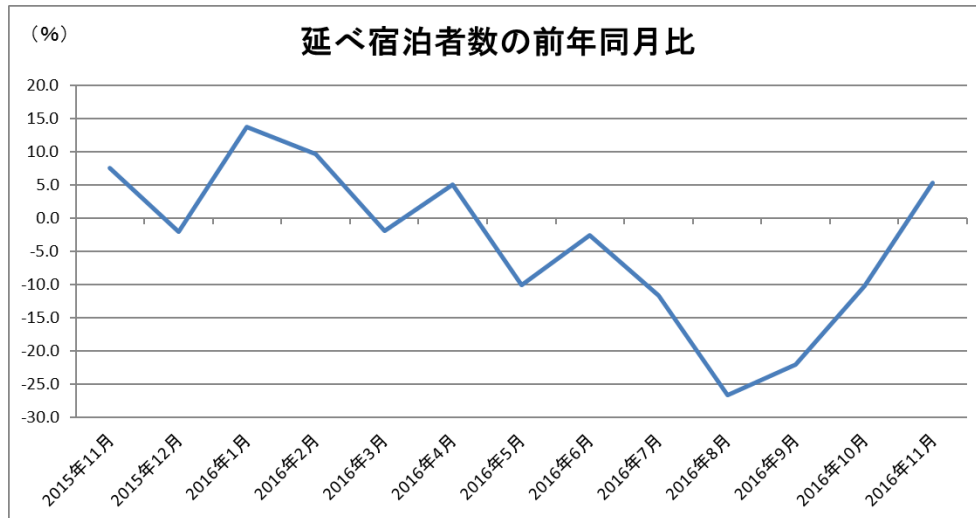
[前回の考察との比較]

・前回の分析に比べて特に上昇幅が大きいのは、「生鮮食品」である。ただし、天候不順による野菜価格高騰の影響が大きいとも見られるため、平常に戻れば再び低下する可能性が高い。

2. 来訪

◆奈良県内の宿泊者数

①前年同月比の推移



出典：国土交通省 宿泊旅行統計調査

[今回のデータの考察]

- ・今年度は、5月以降、10月まで前年同月よりも減少していた延べ宿泊者数であるが、11月は微増に転じた。

②直近の状況

単位(人、%)

対 象	2016年9月		2016年10月		2016年11月		
	人数	前年同月比	人数	前年同月比	人数	前年同月比	
延べ宿泊者数	182,950	▲ 22.01	220,510	▲ 10.19	253,420	5.27	
宿泊施設タイプ	旅館	54,780	▲ 25.78	73,940	▲ 18.15	68,350	▲ 7.60
	リゾートホテル	15,920	▲ 20.40	22,650	▲ 3.49	22,340	▲ 14.14
	ビジネスホテル	38,740	8.88	41,070	▲ 7.89	92,680	105.59
	シティホテル	40,300	12.95	49,660	21.03	49,560	32.37
	簡易宿所	30,490	▲ 56.14	31,650	▲ 31.32	18,990	▲ 67.38
	会社・団体の宿泊所	2,710	-	1,530	-	1,490	-
	うち外国人延べ宿泊者数	20,470	▲ 2.29	18,460	▲ 32.97	20,280	▲ 4.56
宿泊施設タイプ	旅館	2,330	▲ 20.48	3,570	▲ 16.20	4,480	▲ 18.25
	リゾートホテル	2,190	▲ 27.96	2,000	▲ 15.97	3,730	98.40
	ビジネスホテル	4,930	▲ 3.52	4,310	▲ 22.76	4,140	▲ 8.20
	シティホテル	9,720	5.08	7,740	2.38	5,990	▲ 14.79
	簡易宿所	1,240	96.83	840	▲ 89.18	1,950	▲ 16.67
	会社・団体の宿泊所	50	-	0	-	0	-

出典：国土交通省 宿泊旅行統計調査

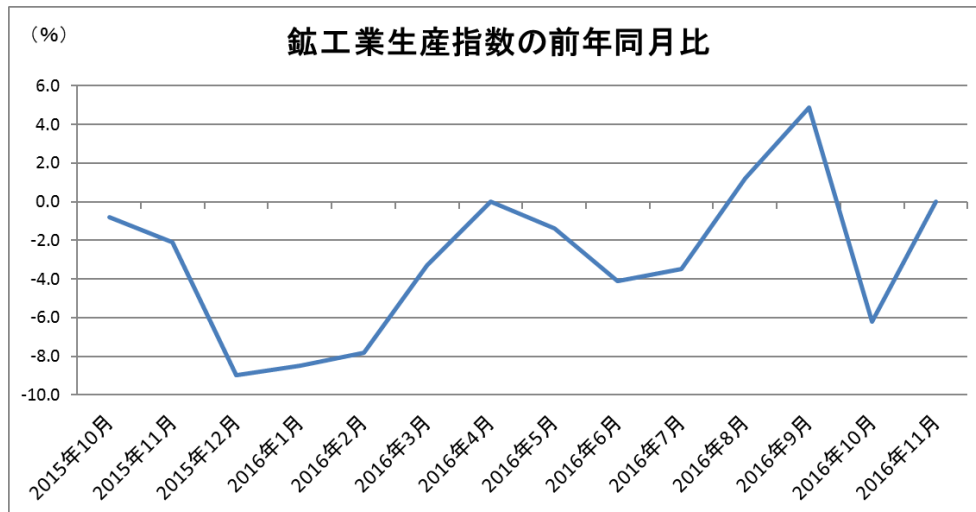
[前回の考察との比較]

- ・前回以上に「ビジネスホテル」の伸びが大きいですが、簡易宿所は大きく下降した。また、前回伸びていた外国人の宿泊者数が、9月以降は下降している。

3. 生産

◆奈良県の鉱工業生産指数（原指数）

①前年同月比の推移



出典：奈良県

[今回のデータの考察]

- ・奈良県の鉱工業生産指数の前年同月比は、2016年10月減少、11月増加と大きく変化している。今後の動向に注目する必要がある。

②直近の状況

単位(2010年=100、%)

対象	2016年9月		2016年10月		2016年11月	
	指数	前年同月比	指数	前年同月比	指数	前年同月比
合計	95.8	4.9	90.8	▲ 6.2	93.7	0.0
鉄鋼業	83.4	▲ 0.2	87.6	▲ 2.8	94.5	6.2
非鉄金属工業	81.2	▲ 1.6	82.9	▲ 1.2	81.0	▲ 2.6
金属製品工業	104.3	30.0	94.4	▲ 34.9	131.7	▲ 7.3
一般機械工業	105.1	▲ 3.8	101.4	▲ 7.8	96.6	▲ 0.7
電気機械工業	46.5	27.4	30.4	8.2	28.6	▲ 22.3
輸送機械工業	110.4	▲ 6.6	102.9	▲ 8.4	109.2	3.8
窯業・土石製品工業	115.2	46.4	126.3	19.3	129.0	32.6
化学工業	121.0	▲ 6.6	126.1	▲ 0.6	135.0	8.6
プラスチック製品工業	88.1	▲ 6.6	90.4	▲ 6.7	94.5	▲ 1.8
パルプ・紙・紙加工品工業	125.7	8.2	133.2	0.8	135.3	6.0
繊維工業	83.1	4.8	84.7	▲ 1.7	88.4	7.4
食料品・たばこ工業	97.9	7.7	88.6	▲ 10.0	92.4	2.8
その他工業	114.7	15.4	111.9	4.0	108.8	▲ 2.4

出典：奈良県

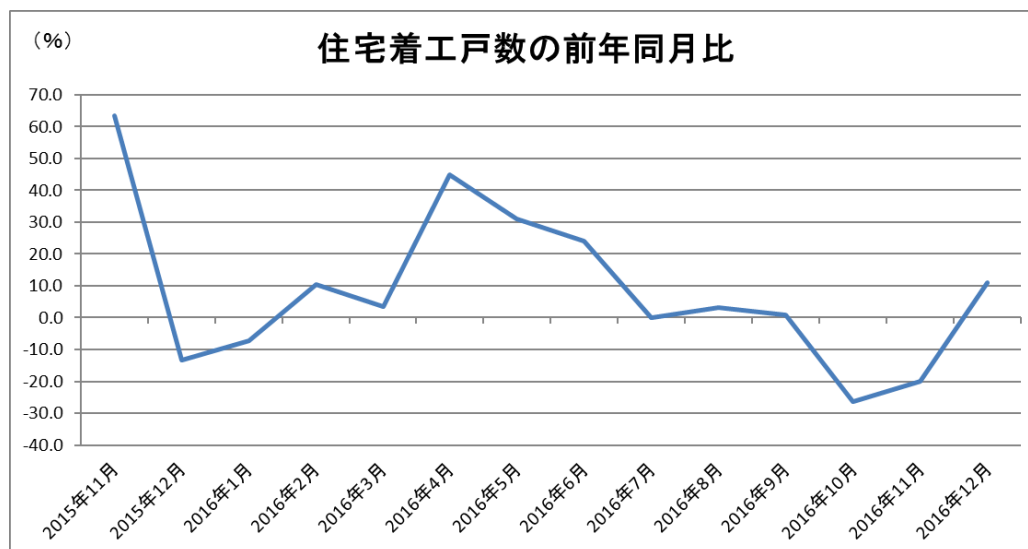
[前回の考察との比較]

- ・前回の分析と大きく傾向は変わらないが、「窯業・土石製品工業」の前年同月比の伸びはやや鈍化した。

4. 民間投資

◆奈良県の住宅着工戸数

①前年同月比の推移



出典：国土交通省 着工新設住宅戸数

[今回のデータの考察]

- ・2016年の10月・11月は住宅着工戸数が前年同月を下回ったが、12月は前年同月を上回った。

②直近の状況

単位(戸、%)

対 象	2016年10月		2016年11月		2016年12月	
	着工戸数	前年同月比	着工戸数	前年同月比	着工戸数	前年同月比
合 計	524	▲ 26.3	598	▲ 19.9	518	10.9
持ち家	226	▲ 12.7	249	3.3	224	▲ 0.4
貸 家	161	54.8	210	▲ 6.3	192	86.4
給 与	22	-	0	0.0	0	0.0
分 譲	115	▲ 67.0	139	▲ 48.5	102	▲ 22.7

出典：国土交通省 着工新設住宅戸数

[今回のデータの考察]

- ・2016年10月は、「貸家」の前年対比が大きく伸びたのに対し、「持ち家」と「分譲」が減少したため、合計の前年対比はマイナスになった。11月は、「持ち家」が少しだけ前年を上回ったものの、「貸家」の微減、「分譲」の大幅な減少の影響で、合計の前年対比がマイナスになった。
- ・12月は、「貸家」の大幅な増加が他の減少を上回り、合計の前年対比がプラスになった。

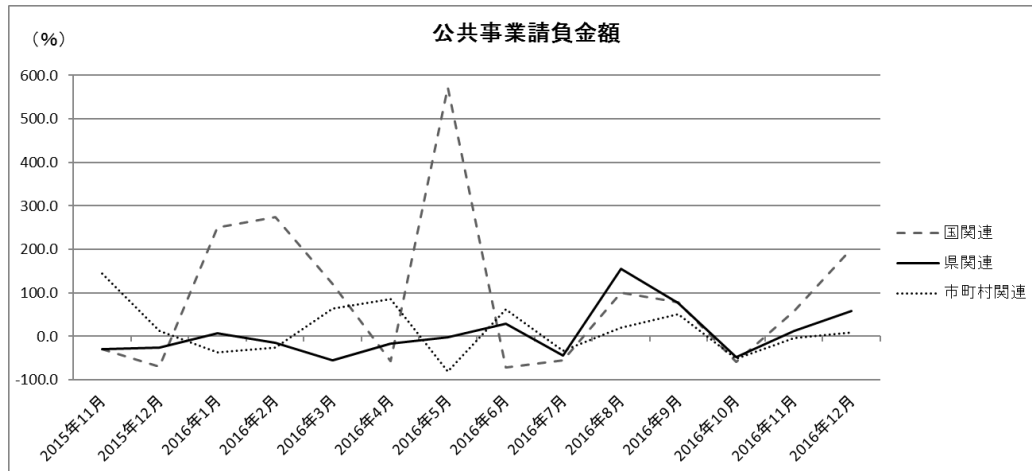
[前回の考察との比較]

- ・前回同様、前年対比で「貸家」の着工件数が伸び、「分譲」が減少する傾向が続いている

5. 公共投資

◆奈良県の公共事業請負金額

①前年同月比の推移



出典: 奈良県

[今回のデータの考察]

- ・浮き沈みはあるが、11月・12月は、昨年を上回る公共事業が実施されている。
- ・平成 28 年度第2次補正予算の影響が出ているものと見受けられる。

②直近の状況

単位(百万円、%)

対 象	2016年10月		2016年11月		2016年12月	
	金額	前年同月比	金額	前年同月比	金額	前年同月比
国関連 公共工事請負金額	1,214	▲ 58.3	1,102	58.8	1,136	201.7
県公共事業等事業 施行契約済額	3,230	▲ 48.1	3,191	12.8	4,373	58.8
市町村関連 公共工事請負金額	2,105	▲ 51.9	2,845	▲ 4.6	1,793	9.3

出典: 奈良県

[今回のデータの考察]

- ・国・県・市町村ともに、10月の公共事業は昨年同月を大きく下回っている。しかし、11月・12月は特に国と県の公共事業が昨年を大きく上回っている。

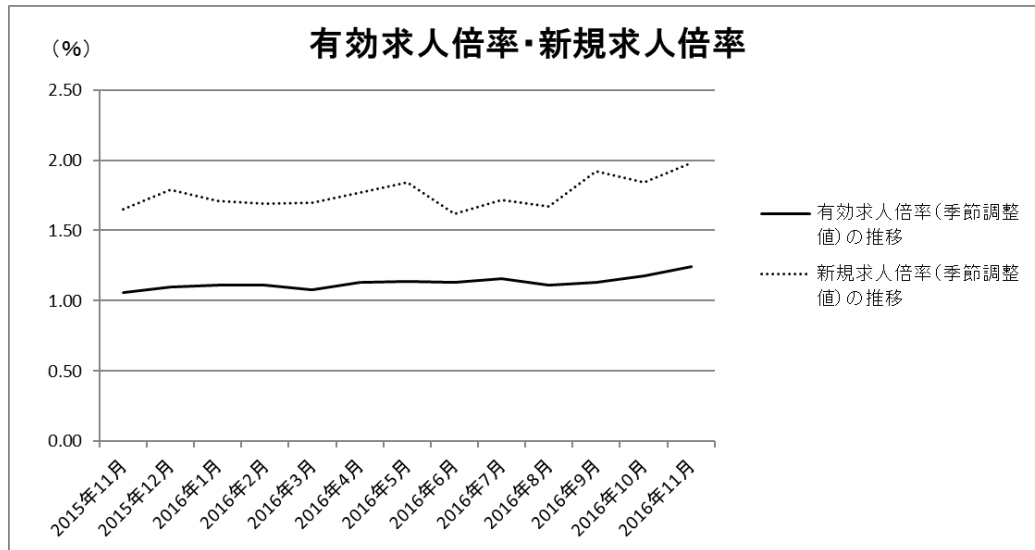
[前回の考察との比較]

- ・当たり前のことであるが、補正予算の執行時期に合わせて前年同月比が上下する状況については、前回と変わりがない。

6. 雇用

◆奈良県の求人倍率

①求人倍率(季節調整値)の推移



出典:奈良労働局

[今回のデータの考察]

- ・有効求人倍率・新規求人倍率(いずれも季節調整値)はともに緩やかに上昇していたが、11月に大きく上昇し、求職者に優位な状況が更に強まった。

②直近の状況

単位(比率)

対 象	2016年10月		2016年11月		2016年12月	
	倍率	前年同月比	倍率	前年同月比	倍率	前年同月比
奈良県全体	1.34	0.34	1.24	0.20	1.26	0.15
ハローワーク奈良	1.28	0.14	1.41	0.13	1.48	0.12
ハローワーク大和高田	1.03	0.13	1.11	0.19	1.15	0.14
ハローワーク桜井	1.09	▲ 0.02	1.21	0.10	1.31	0.10
ハローワーク下市	1.73	0.24	1.74	0.22	1.87	0.30
ハローワーク大和郡山	1.19	0.19	1.30	0.29	1.40	0.19

出典:厚生労働省 一般職業紹介状況

[前回の考察との比較]

- ・直近3ヶ月間の有効求人倍率(原数値)は、前回調査時に比べて更に更に上昇しており、求職者の優位性が高まっている。
- ・結果的に、思ったように採用が進んでいない企業では、採用活動の強化を図っていく必要がある。計画性と情報発信の向上に努めて頂きたい。

以上